

水俣の奇病、最 終検討段階へ

蠖田衛生部長兼任談

奇病対策打合せなどのため上京中の蠖田県衛生部長と守任県公衆衛生課長は二十五日帰郷して次のように語つた。

昨年結成された水俣奇病研究班は新しく五十万円の研究費もついで、在来の組織で行くことになつた。国立公衆衛生院の松田疫学部長を班長に、国立衛生試験所の刈米所長、それに熊本医学部の尾崎部長、蠖田県衛生部長のメンバーで、調査の主体を現地につつして国と連絡しながら継続研究するが、いよいよ最終的な検討の段階にきたようだ。